

# 教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

平成31年2月15日（金）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告・その他報告事項  
教職員の働き方改革フォーラムについて  
はまっ子未来カンパニープロジェクト学習発表会について
- 3 審議案件  
教委第67号議案 横浜市学校保健審議会委員の任命について  
教委第68号議案 平成30年度横浜市教育委員会表彰に係る被表彰者の追加決定について  
教委第69号議案 教職員の人事について
- 4 その他

## 教育委員会臨時会 一般報告

### 1 市会関係

- 2/8 本会議（第2日）一般議案上程・質疑・付託、予算上程・説明
- 2/12 こども青少年・教育委員会

### 2 市教委関係

#### (1) 主な会議等

- 2/1 横浜市PTA連絡協議会創立70周年記念式典
- 2/2 横浜市ESD推進コンソーシアム交流報告会

#### (2) 報告事項

- 教職員の働き方改革フォーラムについて
- はまっ子未来カンパニープロジェクト学習発表会について

### 3 その他

## 横浜市立学校「教職員の働き方改革フォーラム」の開催について

横浜市立学校「教職員の働き方改革フォーラム」を開催しましたので、報告します。

### 1 開催目的

横浜市教育委員会では、平成30年3月に策定した「横浜市立学校 教職員の働き方改革プラン」に基づき、様々な取組を進めています。その一環として、学校における働き方改革に取り組む意識を醸成するため、今回は株式会社セブン&アイ・ホールディングスの協力を得て、企業、大学、有識者、学校等による実践紹介等を通じて、学校における働き方改革について多面的な視点で考える機会とするものです。

### 2 開催概要

- ・日 時：平成31年2月4日（月）14時30分から17時まで
- ・会 場：株式会社セブン&アイ・ホールディングス 伊藤研修センター  
（横浜市港北区新横浜2-19-1）
- ・参加者：学校教職員、教育委員、他都市教員・教育委員会、企業、学生、市他部局職員等 約200名
- ・内 容：  
オープニング 学生の活動紹介（NPO法人日本教育再興連盟（ROJE））  
（1）挨拶・説明  
「平成31年度横浜市における働き方改革関連予算等について」（約10分）  
  
（2）企業での実践から学ぶ 「イトーヨーカ堂の働き方の変化」（約10分）  
人事室 勤労厚生部 総括マネジャー 須賀 秀人氏  
  
（3）「学校提案型 働き方改革推進校」による実践から考える（約20分）  
・提案1 北山田小学校  
「働き方改革で、みんな笑顔のチーム北山田！」  
・提案2 鴨居中学校  
「未来志向で、楽しく働こう！先生も生徒も楽しみが増える学校を目指せ！」  
  
（4）睡眠の大切さ（約10分） 教職員労務課  
  
（5）基調講演（約40分）  
「学校の働き方改革の先にあるもの」  
講師 妹尾 昌俊 氏  
中央教育審議会働き方改革特別部会委員、横浜市学校業務アドバイザー 等  
  
（6）大学との共同研究（約15分）  
「持続可能な働き方プロジェクト」  
～サーベイフィードバックが教職員の働き方を変える～  
立教大学 中原淳研究室 × 横浜市教育委員会

### 3 フォーラム参加者からの主な意見・感想（アンケートより一部抜粋）

#### 《管理職》

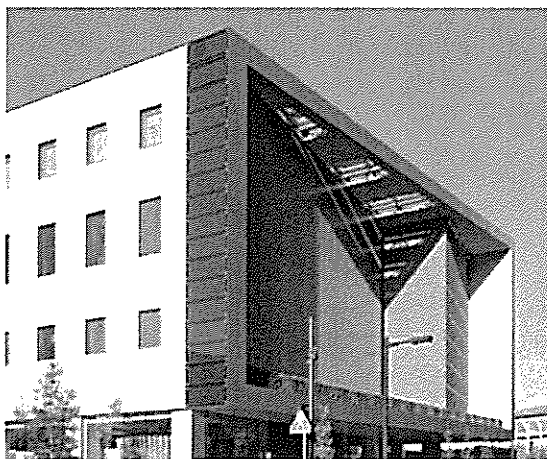
- 目指すべき組織像を明確に持って推進にあたりたい。「全ては子どもたちのために」は当たり前として、あえてその中でもプライオリティーをつけていくことが大切だと分かった。
- 学校の規模や教職員によって働き方改革の進め方が違うと思うが、やはり管理職が自ら進んでリーダーシップをとり、取り組まなければ実現されていかないものだと強く思う。
- ショートコンテンツが多くあり、全体としてつながっている、という形式に刺激を受けた。「働き方改革に特効薬はない」という言葉が印象的で、できることからどんどん取り組むことも必要と思う。まず、「何で？何を目指して？」をもう一度考え、そのような気持ちになって学校に戻ることができる。
- 学校の実態を把握し、まずできるところから取り組んでいきたい。より多くの教職員に、今回のフォーラムの内容を知ってもらい、この先の教育のあり方を探って欲しいと感じた。
- 現在の働き方の「見える化」に取り組んでみたい。まずは自分が何に時間を使っているのか、そして、できれば組織を立ち上げて本校の働き方を見直し、少しずつ改善に取り組んでみたい。
- やめること、減らすこと、大切にすることを精選し、教職員が元気になるための取組を進めていきたい。それが子どもたちの笑顔と元気につながる。
- 社会の中にある学校として時代にマッチしたものにしたい。先生方の幸せがスタート。それが子ども達の幸せだ。

#### 《教員》

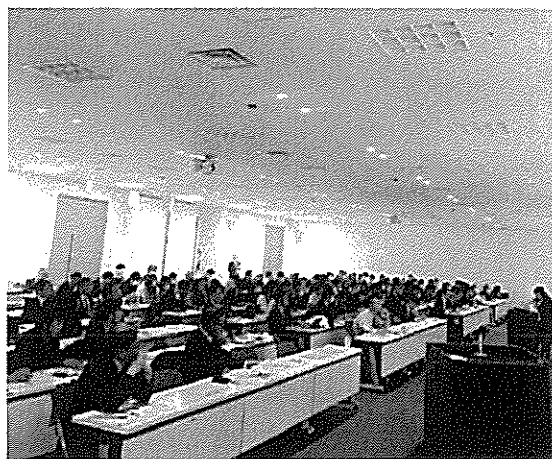
- 職場の仲間と同じ方向を向き、思いを共有しながら環境を良くしていきたい。管理職だけに任せるのではなく、自分たちで1つずつ変えていきたい。もっとできることがあると感じた。
- どの発表もワクワクしながら拝聴した。出来そうなことの枠が大きく拡がり、この流れに乗ることが大事。
- 仕事を見える化し、「負担 VS 効果」を考えて優先順位を決めていきたい。
- 本校でも取組みを進めてきているが、働き方改革の先にあるものの共有（何のための働き方改革なのか）が大事で、本校はそこが弱いのかなと感じました。改めて職場で意見を出し合っていく必要がある。『働き方改革に特効薬は無い』と教えていただいたように、本校に合った改革を進めていきたい。そうは言っても、学校だけでは限界があり、文科省や教育委員会、保護者や地域にも思いを伝え、一緒に改革が進めていけるよう知恵を出し合っていきたい。
- 「見える化」「自分たちで決める」「ワクワクするような改革」このキーワードに感銘を受けた。
- 自分で組織を動かしていくことは難しいが、フォーラムで聞いたことを現状の改善に向けて、意識を高める人が増えるように発信していきたい。
- 働き方改革が、一部の人たちの業務時間短縮になり、他の人が代わりにやらなくてはならないようだと仕事が偏ってしまう。（中原研究室のサーベイフィードバックのような）働き方調査とデータ分析を学校単位でもみてみたい。盛りだくさんの内容は、充実していてとても興味深かった。

## 《学校事務職員》

- 本日の研修でもあった通り、「働き方改革」が教員の「生き方改革」になり、ひいてはそれが子どもへの「教育の質の向上」につながるのであるという論理的解釈を、共通認識としていくことがこれからも必要。
- まずは学校内で働き方改革の意義と目指すべき姿を共有し、教職員全体で共感することが必要だと感じた。学校で取組を考えるためのヒントとエネルギーをもらった。
- 現在、様々な方法を「挑戦」中。自分の学校オリジナル改革案を楽しく前向きに取り組んでいきたいと、改めて勇気とやる気もらった。
- 目指すべき姿を共有するために、まず全教職員が前向きに楽しく取り組めるようにコミュニケーションを図りたい。意見を出しやすい職場づくりにも取り組んでいきたい。



会場：株式会社セブン&アイ・ホールディングス  
伊藤研修センター



会場の様子



「学校提案型 働き方改革推進校」による実践から考える  
「未来志向で、楽しく働こう！先生も生徒も楽しみが増える  
学校を目指せ！」 鴨居中学校



基調講演：「学校の働き方改革の先にあるもの」  
講師 妹尾 昌俊 氏

## はまっ子未来カンパニープロジェクト学習発表会について

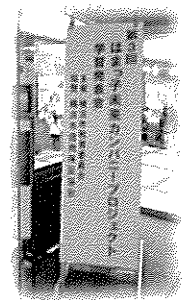
横浜市では、子どもたちが未来を生きていく力をつけるために、学校と社会が一丸となった横浜らしいキャリア教育「自分づくり教育」に取り組んでいます。

28年度から、学校と企業・地域等の外部機関の連携のもと、子どもたちが自分たちで社会課題を解決する「はまっ子未来カンパニープロジェクト」を開始し、3年目となる30年度は、33校が参加しています。

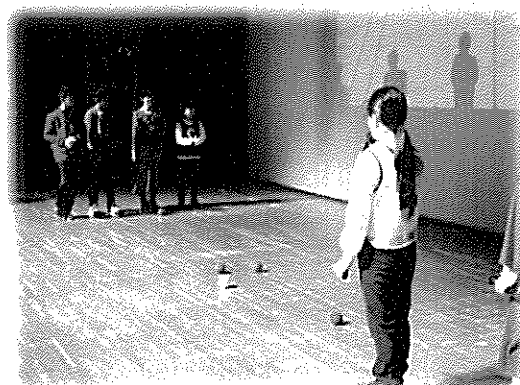
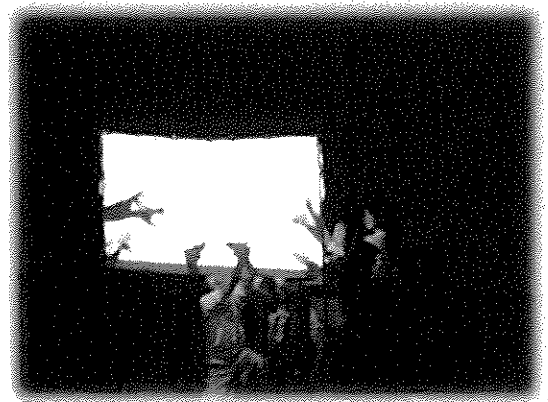
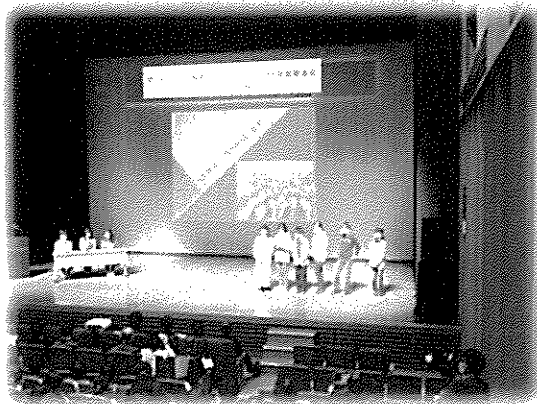
今回、9校がこれまでの取組の成果を発表する学習発表会を開催したので報告します。

### ◎開催概要

日 時：平成 31 年 2 月 9 日（土）9 時 40 分～12 時 30 分  
場 所：横浜市神奈川区民文化センター（かなっくホール）  
発表校：9 校（小学校 9 校） ※裏面の資料は発表順  
参加人数：262 名



### <各校の発表の様子>



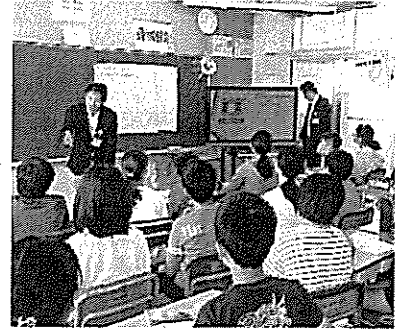
【発表校と連携機関・取組内容】

	学校名	連携機関	取組内容
1	【商品開発・販売等部門】 潮田小学校 6年1組	株式会社ローソン	【商品開発（パン）・販売に関する取組】 鶴見区という地域の特性を生かしたパンの商品開発をすることを通して、ものづくりや仕事、「働く」ということについて考えていく。
2	【商品開発・販売等部門】 日枝小学校 3年3組	弥太郎最中本舗	【商品開発（最中）・販売に関する取組】 弥太郎最中本舗の店主との出会いから、目玉商品の粒あん最中作りに取り組み、ものづくりについて考えていく。
3	【学校貢献部門】 汐見台小学校 6年2組	株式会社フォトスタジオアライ	【校舎のアルバム作りに関する取組】 建て替え予定の校舎を、下級生たちに伝えるためにアルバムを作成することを通して、自分たちの学校を見つめ直していく。
4	【地域貢献部門】 一本松小学校 5年1組	障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール	【オリンピック・パラリンピックの推進に関する取組】 オリンピック・パラリンピックについて調べたり、ボッチャの競技を体験したりし、スポーツを通して地域の人と関わっていく。
5	【地域貢献部門】 浅間台小学校 4年	協同組合ギルダ横濱	【地域の伝統工芸に関する取組】 地域の産業である捺染業について知り、バンダナ作りを通して、学校や地域のよさについて考えていく。
6	【地域貢献部門】 南山田小学校 6年2組	有限会社劇団かかし座	【表現（影絵）に関する取組】 学区内に拠点をおくかかし座の方から教えていただいた影絵を通して、自分たちの成長や感謝の思いをお世話になった方へ伝えていく。
7	【地域貢献部門】 新治小学校 4年1組	新治市民の森愛護会 梅田川水辺の愛護会	【地域の自然や生き物に関する取組】 新治市民の森や梅田川の自然に触れ、愛護会の方と関わりながら、自分たちのまちの自然を未来にも残していくために自分たちに何ができるかを考えていく。
8	【地域貢献部門】 能見台小学校 5年2組	ブラインドサッカークラブ buen cambio yokohama	【オリンピック・パラリンピックの推進に関する取組】 オリンピック・パラリンピックについて知り、ブラインドサッカーの競技を体験しながら、2020年に向けて学校全体を盛り上げていく活動を展開していく。
9	【地域貢献部門】 六つ川小学校 6年2組	すむさとリーグ	【養蜂を通じた地域環境に関する取組】 養蜂活動を通して、ハチミツやものづくりについて学び、これまでお世話になった地域の方へ感謝の気持ちを伝えたり、地域の自然環境について考えたりしていく。

# 叶えよう！ほくらのビッグドリーム ~ローソンで売れるパン作り~

潮田小学校

ローソンの三澤さんから「ローソンと潮田小学校で協力して、よく売れるパンを作っていきたいです。」とお話を頂きました。買ってもらいたいターゲット、コンセプト、そしてパンの形、生地、中身、パッケージ、ポスターなど、全て自分たちが考えて決めていく・・・。「テレビで宣伝してもらえるようなパンにしたい！」「売れ続けるヒット商品を作ろう！」と、私たちの目標『ビッグドリーム』を決めました。また、そのためにやりたいことを『プチドリーム』として、商品開発チームと、販促物チームに分かれて活動が始まりました。



<p><b>① 好きなパンを調べたい！</b></p> <p>小学生全員、中学校全生徒にアンケートをお願いしました。</p> 	<p><b>② 売れ筋パンを知りたい！</b></p> <p>一番売れるパンは食パン。売れるパンの共通点を教えてもらいました。</p> 	<p><b>③ 販促物の作り方を知りたい！</b></p> <p>ポスターやパッケージ、POPに実はいろいろな工夫があるのです。</p> 
<p><b>④ パン工場見学に行きたい！</b></p>  <p>工場までの経路を調べ、しおりを作りました。お話を聞いてパンに込められた熱い思いや社会の厳しさを感じました。</p>	<p><b>⑤ コンビニ見学に行きたい！</b></p> <p>付き添いボランティアをお願いし、ポスターやPOPの工夫を調べました。</p>	<p><b>⑥ パンの素材を探したい！</b></p> <p>潮田らしいパンとは？地域の沖縄料理屋やブラジル食材店に行きました。</p> 
<p><b>食べて考えてプレゼン→やり直しの連続</b></p>		
<p>思いが実現するようにパン工場の方が何度も来てくださり、繰り返しプレゼンしました。そのたびにダメ出し。心が折れそうになったり言い合いになったり。</p>		<p><b>ついに完成！！</b></p> <p>「自分たちでプチドリームを叶えて進めてきた！」「多くの人に支えられて感謝！」「たくさん買ってもらいたい！」</p> 

⑦ 店員になって売りたい！

⑧ テレビや雑誌で紹介したい！

⑨ たくさん発注してもらいたい！

たくさんのプチドリームを自分たちで叶えて、ビッグドリームに近づいてきました。



(株) ローソン  
関東商品部  
三澤 康行さん

今年初めて、参加させていただきました。日頃は取引先との商談をしながら商品開発を進めているため、今回のように子どもたちの意見を聞きながら商品開発をする事は初めてで、授業のたびに子どもたちの発想に驚かされる事が多々あり、楽しく授業を進めさせて戴きました。

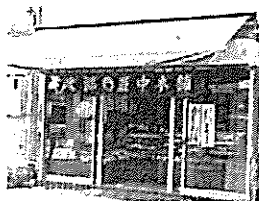
今回はパンを一緒に作りましたが、子どもたちが今後「ものづくり」に興味をもち、多くの人々の役立つような大人に成長してくれればと思っています。



## ドキドキがとまらない 弥太郎最中本舗さん！ 日枝小学校

社会科の「まちたんけん」では、ほのかに甘さが漂う香りに誘われて、子どもたちは「弥太郎最中本舗さん」に吸い込まれるようにして入って行きました。他店とはひと味違う店構えに興味をもち、女性店主関さんにインタビューすることになりました。すると、店員は関さん一人で製造販売していることや、100年近くも続く老舗だと言うことを知りました。しかも、関さんの年齢は70代。関さんは、子どもたちに餡をくださったり、調理場に惜しみなく入れてくださったりしました。そうした関さんの優しい人柄に触れ、次第に子どもたちは「関さんの役に立ちたい。こんなにお世話になっているからお礼をしたい。」という思いをもちました。そこで、お店の目玉商品で、餡が関さんの手作りである粒餡最中を作ってプレゼントすることになりました。

何度も何度も行った餡作りでは、「関さんのような、甘すぎず粒が光っている餡を作るにはどうしたらよいか。」と課題を見つけ、学び合う中で解決していくことができました。関さんや友達と関わりながら進めていく中で、相手のよいところを見つけ、認め合いながら話し合う姿も多々ありました。単元を通して大きく成長することができました。



弥太郎最中本舗  
関 きぬよさん

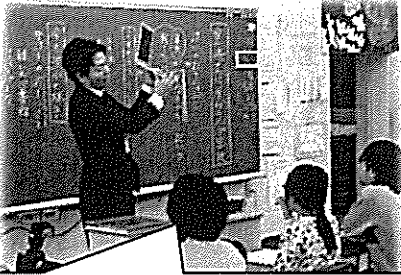
最初は、興味本位で和菓子を作るのかなとも思いましたが、子どもたちも先生もとても熱心で驚きました。分からないことがあると、子どもたちが放課後もお店へ聞きにきていたぐらいです。現在は和菓子への興味が薄れていく傾向にありますが、子どもたちが和菓子に興味をもち、買いに来るようにもなりました。こんなにも熱心に取り組んでいて、大変驚きました。

3年3組のみなさんが、元気で熱心でうれしくなりました。話をするときの言葉づかいもとてもいいので驚きました。これからも、様々なことに興味をもって勉強をしていってください。

## 伝えよう感謝～学校のためにできることプロジェクト～

汐見台小学校

6年2組では、(来年度)校舎が建て替えられる前に、お世話になった汐見台小学校のためにできることを考えました。そこで、汐見台小学校の4つの宝「自然」を残したいと考え、アルバムを作成ことにしました。アルバムをよりよい物にしようとプロ写真家に「撮影の技術」「撮影することの意味」などを教わりました。

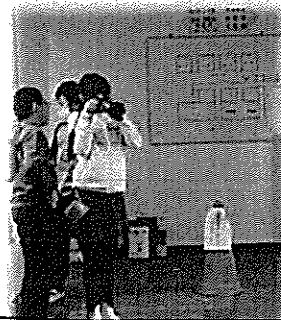


何を撮りたいかではなく、何を伝えたいかを意識して撮ると、完成した写真が変わった。

撮影者の意図が伝わるように写真を撮ろう。

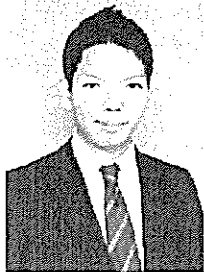


撮りたい物+背景をどう入れるかで、これまでとは違う写真ができた。



撮影活動を始めた当時、子どもたちは、一人ひとりが撮影する場所を分担した方が効率的だと考えていました。その結果、一人ひとりが撮影した写真を一冊のアルバムにしても「学校の良さ」が伝わってきませんでした。

しかし、専門家との出会いを通して「お世話になった学校のために写真を残す」という思いが強まると、「何のために写真を撮るのか」を考える児童が増えました。だからこそ、子どもたちは自分が撮影した一枚一枚の写真に自信をもつことができました。それと同時に、お世話になった学校の良さを見つめ直し、学校を大切に思う思いが深まりました。



株式会社  
フォトスタジオアライ  
豊嶋 良仁さん

今回、6年2組の皆様から来年建て替えとなる校舎を写真で記録しアルバムを作成するというお話をいただき、参加させていただきました。

最初に児童の皆様から意見を聞き何を残したいのかを具体的にすることで、校舎や自然などの様々な思い出の場所を6年間通った児童たちならではの視点で写真を撮っていて、写真に「メッセージ」と「意図」が表れていたのがよかったと思います。今は簡単に写真が取れる時代ですので、SNSやマナーに気をつけてこれからも撮影を楽しんでください。アルバムの完成をとっても楽しみにしております。

# みんなで楽しもう！一本松オリンピック

一本松小学校

今年、一本松小学校は「オリンピック・パラリンピック教育推進校」に指定されました。横浜でもいくつかの競技が行われることを知り、オリンピック・パラリンピックのことをもっと知って、「みんなで力を合わせて学校や地域の人に広めていきたい！」という思いをもち、活動が始まりました。

## オリンピック・パラリンピックってどんなものだろう？みんなで調べてみよう！

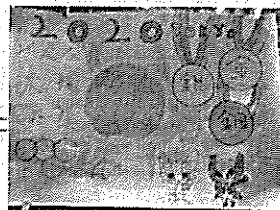
- ・オリンピック・パラリンピックの歴史を調べよう
- ・オリンピック・パラリンピックの競技を調べよう

聞いたことがない種目や東京オリンピック・パラリンピックから新しく競技になった種目もあることを知りました。

### 作戦1：ポスターを作ろう

みんなに東京オリンピック・パラリンピックが楽しいと思ってもらえるようなポスターを作っているところに貼ろう。

→「いろんな人が立ち止まってポスターを見てくれたね。」



### 作戦2：オリンピック・パラリンピックの競技を体験してもらおう

一本松オリンピックを開催しよう

競技のおもしろさを知ってもらうには、競技を体験してもらうことが一番と考えました。そこで、みんなが楽しめる競技を考えてみました。

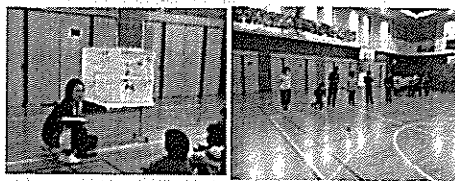
多くの人に参加してもらいたいから、「ボッチャ」という競技をみんなで選びました。ボッチャを西区体育協会の方に教えてもらいました。

「これなら小さい子からお年寄りまでいろんな人ができそうだ！」

様々な立場の人にボッチャを体験してもらう計画を立てました。

○他学年との交流 ○近隣の幼稚園との交流

○地域のお祭りへの参加 ○敬老会との交流

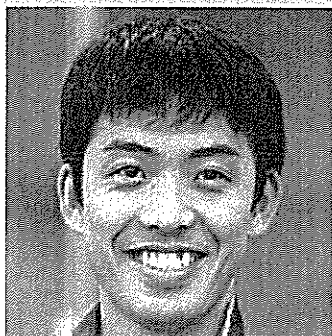


### 作戦3：実際に競技をしている人の話を聞いて、その人の声を届けたい！

横浜ラポールの方に障害者スポーツについて教えてもらうことになりました。障害者スポーツをするためにどんな工夫をしているのか、また競技をやっている人たちがどんな想いでそのスポーツに取り組んでいるのか知りたいと思いました。

東京オリンピック・パラリンピックのことを学校や地域の人たちに楽しく知ってもらう工夫を考えました。ルールや道具など様々な工夫をすることで、だれもが楽しく関われることを知りました。

「幼稚園の友達や敬老会などの地域の方たちと、スポーツを通して楽しく関わっていこう！」



社会福祉法人  
横浜市リハビリテーション事業団  
障害者スポーツ文化センター  
横浜ラポールスポーツ課  
施設運営担当 福田 豊さん

障害児・者のスポーツの特徴として、道具やルールの工夫をあげることができます。

そこで、今回の障害者スポーツ体験では、道具やルールの工夫で、より多くの人々がスポーツに参加できるようにすることをテーマとしました。このように、いろいろな人にあわせて、みんなが参加できるように工夫する、ということはスポーツに限らず、共生社会の実現に向けた大切な考え方であることを子どもたちに解ってもらいたい、と思います。

# 地域とつながる 手ぬぐい

浅間台小学校



3年生では、地域とつながるサイダー、「hands to hands サイダー」に取り組んだね。地域の人とたくさん関わることができたよ。(3年)

今年も地域とつながりを深めたい

「ギルダ横濱」という手ぬぐいを作るお仕事をする人が地域に住んでいるんだって。一緒に関われないかな。



きれいな模様だけど、どうやって作るのかな。「捺染」ってそもそもどんなお仕事？

手ぬぐいってあまり使ったことないけど、どんないい所があるのかな。

## ギルダ横濱の内藤さんに話を聞いてみよう！！(7月)



- ・捺染業は帷子川（学校の近くを流れる川）で昔、盛んに行われていた。
- ・今は捺染業を行っている人も減ってきている。
- ・浅間台小学校の子どもたちに、捺染業が行われていたことを覚えていてほしい。

自分たちができることって何だろう。

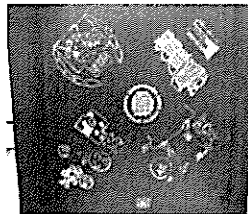
よさをみんなに知ってもらえるといいな。

自分たちでもデザインしてみたいな。

### 宣伝担当（動画・ポスター・ちらし）

『手ぬぐいやバンダナのよさって何だろう。』

- ・たくさんの使い方がああるよ。（テーブルクロス、物を包むなど。）
- ・機能性がいいよ。（薄い、風通しがよい、汗を吸うなど。）
- ・作り方を知らせよう。（作り方を知らない人にも知ってもらおう。）



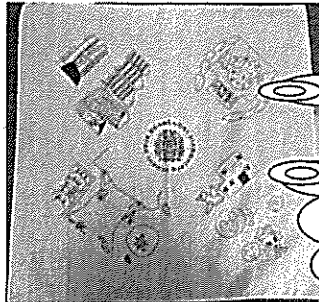
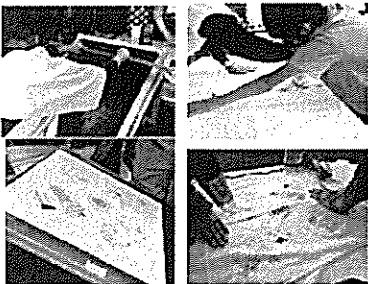
オリジナルのデザイン

### デザイン担当

『学校と地域のよさって何だろう。』

- ・地域の人は優しいね。（見守り隊の人、笑顔。）
- ・自然がいっぱい。（木や畑があるね。）
- ・学校の校歌（小鳥、桜、月桂樹。）
- ・学校から見える物（ランドマークタワー、地域。）

## みんなで バンダナづくり(11月)



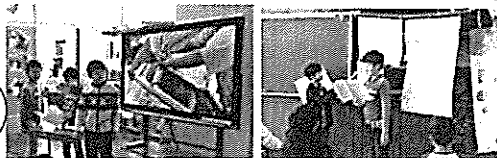
自分たちでデザインしたものが形になるってうれしいな。インクがたくさんついてるところはしっかりと乾かそう。

上手とか、下手とかではなく、「布をきれいに伸ばすこと」や、「型をしっかりと拭くこと」などの一つひとつの技が大切だということが分かったよ。

職人さんの技！！

## 浅間台フェスティバルで 伝えよう(12月)

動画で作り方を分かりやすく説明



ギルダ横濱さんのこと、学習したことを生かして作った歌について、模造紙にまとめて説明しました。



協同組合 ギルダ横濱  
専務理事 内藤信義さん

連携してよかったことは、子どもたちが喜ぶ顔がとても新鮮でした。連携した我々にとっても、非常にうれしかったです。地場産業についても伝えることができ良かったです。

浅間台小学校4年生の皆さん、自分で考えそれを形にする楽しさを、これからも続けていってください。

また、夢や目標をもって勉強することを、先生方が子どもたちに伝えていってほしいです。

# 心をひとつに！6-2劇団「青い鳥」

～手影絵で伝える、感謝と成長～

南山田小学校

## ○取組内容○

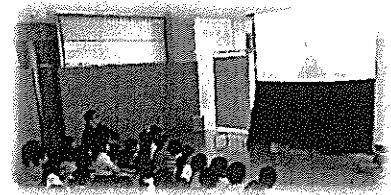
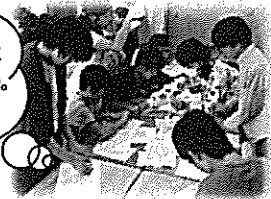
6年2組では、「小学校最後の総合、みんなで一体感や達成感を感じられるものにしたい！」「自分たちの成長や感謝の思いを、お世話になった人たちに伝えたい！」という思いのもと、手影絵に取り組んできました。

南山田の地域に本部と稽古場を置く劇団「かかし座」さんに、手影絵の技術やお芝居のポイントを教わりながら、3月の最終公演をゴールに作品づくりを行いました。

## ○子どもたちの活動の様子○

ストーリー性のある物語作品と、音楽に合わせて手影絵を動かすダンス作品に挑戦し、グループごとに計4回の作品づくりに取り組みました。練習を重ねることに表現の工夫にも広がりが見られ、自分たちの手影絵の技術が高まっていくことや、仲間とともに息を合わせて表現する喜びを実感することができました。

6年生に書いてもらったアンケートを分析しよう。もっとよくするにはどうしたらいいかな。



かかし座さんにたくさんコツを教えてくださいましたよ。プロの技ってすごいな！

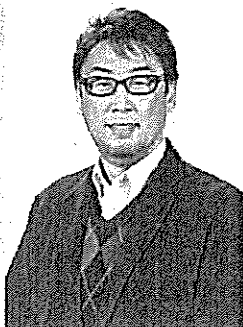
## ○身に付いた力○

### 創造性

自分や友達の見解、かかし座の方のアドバイスを聞いて、よりよいアイデアを作り出したり、選択したりする力。

### 協働性

友達の個性や考えを理解し、認め合いながら、全員で協力して共通の課題に取り組んでいく力。



(有) かかし座  
西垣 勝さん

まもなく我々かかし座は創立70周年を迎えます。歴史ある劇団ではありますが、まだまだ多くの方には知られていない事実がある中、子どもたちに自宅近くにそのような劇団があるという事を知ってもらえる機会をいただいた事は大きな喜びであります。

我々は『影絵』を職業として活動しています。それ故に新しい表現を見失いがちであるのも事実で、子どもたちの無邪気な表現を見ている中で、我々が思いつかないような表現、忘れがちな何かを思い出させてくれました。子どもたちの発想、取り組む姿に毎回、驚きと頼もしさを感じると共に、私も勉強させていただきました。

知らないから、興味がないから、できないから、との理由だけで簡単に諦めるのではなくおかげさへ聞こえるかもしれませんが、些細なきっかけが原因で興味をもち、その後の人生に大きく影響を及ぼす事は多々あります。どんな事にもほんの少しでも何かを掴むまで思い切ってチャレンジしてほしいです。



# 自然研究隊！ | N新治

～新治市民の森や梅田川のおさを伝えよう～

新治小学校

4月から、新治市民の森や梅田川に繰返し出かけ、自然とたくさん触れ合いました。森や川に行くたびに、自然や生き物について新しい発見がありました。また、森や川の愛護会の方が新治の自然を大切にしてくださっていることに気がきました。この素晴らしい環境を守り、未来にも残していけるようにするために自分たちができることを考えました。

## 【新治市民の森の活動】

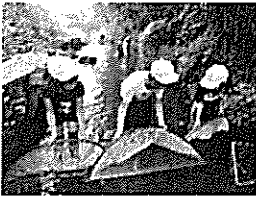


- 学校林の下草刈りをしたよ。
- 教えてもらいながら、鎌をつかったよ。
- たくさん草が生えていてびっくり。
- 生き物もいそうだな。



- 竹にも種類があることを初めて知ったよ。
- 季節によって植物や虫も変わるのかな。
- 食べられる木の実がこんなにたくさんあるんだ。

## 【梅田川の生き物調査】



- 三日月網ってこうやって使うんだ。
- 草陰のほうを探してみたら、オイカワがいたよ。



- 卵をもったザリガニ発見！
- せっかく捕まえたから、飼ってみたいな。

## 【子どもたちの振り返りから】

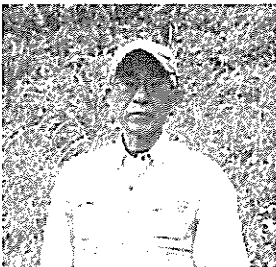
- 生き物がたくさん住む梅田川がずっと続いてほしい。
- 川で見つけた生き物を多くの人にわくわくで伝えたい。
- 梅田川はきれいだから、たくさん生き物がみつかるね。
- ゴミをポイ捨てるのは、森を汚すね。
- 食べ残しを少なくすることも大事なんだ。



梅田川水辺の愛護会  
三浦 孝悦さん

人々は、自然環境を消費するだけでなく、地域の自然環境を守る必要があり、新治小学校は、梅田川に隣接の好条件で、全校で川清掃を実施しております。4年生の生き物調査では、三ヶ月網とエビタモ網の使い方を学び、採った小魚はきれいな水に入れて学校に持ち帰り、何匹とれたかをカウント記録した上で梅田川に戻し、命の大切さを教わりました。

まとめとして、体験したことに自分たちで学んだことを加え、11月10日のワクワクデーの発表会で、全校児童に教えてくださったことは、大変素晴らしいことでした。



新治市民の森愛護会  
事務局長 荒井 晃さん

4年生の自然に対する関心の高さを感じました。初めて使ったカマでの作業を通じて、教室の中では学べないことを沢山吸収していました。高齢者が多い愛護会員も孫のような元気な子どもたちに接し、自分たちも役に立っていると実感しました。いつもは何気なく見ていた野山に子どもをはじめ、先生、保護者の方々もとても関心をもたれており、日頃の学習と共に心豊かに育っていると感じました。

横浜という都会に住みながら、新治は森のある自然豊かな「ふるさと」としていつまでも心に残っていくことと思います。新治の森に触れた体験から、皆さんの感性が豊かになり、自然の不思議・大切さも学んだことと思います。新の字は「木」と「立」、「斤」があります。立っている木を切り倒すと、その切り株から新しい芽がすくすくと伸びてきます。(萌芽更新) 4年生が今後も「新」の字のように、逞しく育っていくことを期待しています。

# 2020盛り上げよう！そだねー！オリパラ体験

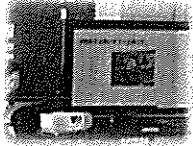
能見台小学校

4月

本校が今年度、オリンピック・パラリンピック教育推進校に認定されました。それを受けて、本学級（5年2組）の児童も、オリパラに興味をもち始め、自分たちの力で2020年に向けて学校全体を盛り上げていきたいという気持ちを強くもつようになりました。こうして、今年の総合のテーマが決まりました。

5月

盛り上げたい気持ちとは裏腹に、自分たちもオリパラについて知らないことが多いことに気づきました。そこで、グループに分かれて歴史、選手、競技、様々なことを調べ、共有し合いました。話を聞く中で、パラスポーツに興味をもち、自分たちも体験してみたいという思いをもち始めました。



6月

7月

8月

9月



10月

盛り上げるためにはどうすればいいだろう…？ そう考えていた時に、1つのDVDが届きました。これだ！東京五輪音頭2020の能見台小学校バージョンを作ることを思いつきました。

11月

12月

はまっ子未来カンパニープロジェクトでご紹介いただいたブラインドサッカーチーム「ブエンカンピオ横浜」さんとの交流がスタートしました。1回目の交流では座学にて、ブラインドサッカーの紹介や魅力、視覚障害者の生活などを学びました。

2回目の交流では、実際にアイマスクをつけての体験会を行いました。見えないことの難しさを体験するとともに、仲間と声を掛け合うことの大切さ、相手の立場を考えること、思いやることの大切さに気付くことができました。併せて、盛り上げるための活動「東京五輪音頭2020～能見台小バージョン～」の撮影も行いました。パラリンピックの手話が振付として出てくる2番の一部を、ブエンカンピオのメンバーの方と共に踊りました。



## <今後の活動>

2月に本校で行われるフェスティバルでは、「OPDS（オリンピック・パラリンピック・デフリンピック・スペシャルオリンピックス）2020～楽しみながら知ろう！～」をテーマに、発表ブースを設置予定です。それぞれの大会の魅力や、それらに関わる人々の想い、交流して分かったことなどを伝えることで、全校のみんなによりいっそう2020を楽しみにしてもらいたいという願いがあります。また、五輪音頭も引き続き撮影を行い、当日上映予定です。

様々な活動を通して、パラスポーツへの理解はもちろん、仲間と協働する楽しさや伝えることの喜びも味わってほしいと考えています。



ブエンカンピオヨコハマのみなさん

○ 授業を行ったことで体験ではなかなか話せないような視覚障害や視覚障害者の日常を伝えることができた点がよかったです。皆さんとたくさんお話やブラインドサッカーができて、とても楽しかったです。「相手の立場になって考える」この言葉を大切にもらえるのが嬉しいです。

- 私たちにとって、何をどのように伝えればよいかを整理するよい機会となりました。障害は個性です。目の前にいる個性ある人に対し、その人の立場に立って考え行動してみてください。そうすれば自然と仲良くなれるはずですよ。
- みんなとブラインドサッカーをできてとてもよい時間を過ごす事ができました。相手と対話することの大切さを少しでも感じてくれたならとても嬉しいです。僕らも日本一を目指してがんばるのでこれからも応援してください！

ブエンカンピオヨコハマ 齊藤悠希さん、鎌野暁斗さん、小田桐雄飛さん

# The Mutsukawa Honey BoomBoom キュン

六つ川小学校

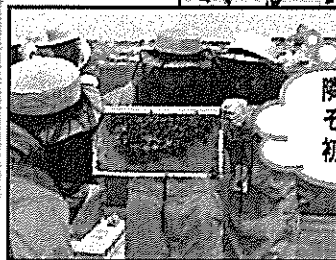
「これまで育てていただいた地域の方々、保護者の方に感謝の気持ちを伝えたい。」「地域の自然環境や命の大切さについて学びたい。」そんな思いから始まった養蜂活動。自然環境についてはもちろんのこと、ハチミツを使った「食」、蜜蝋を使った「ものづくり」など、自分たちが学習したいことがたくさん！ハチミツを採取し、六つ川を支えてくださっている地域の方との交流会を開き、ミツバチに、六つ川の地域に、そして私たちの成長に「キュン」としてもらいたい。そんな思いを込めて決まった「The Mutsukawa Honey BoomBoom キュン」

養蜂活動を始めるためには、たくさんの準備が必要。また自分たちの力だけではどうしてもなく、協力して下さる方が必須。「弘明寺商店街で、養蜂活動をしている方がいるらしい。」

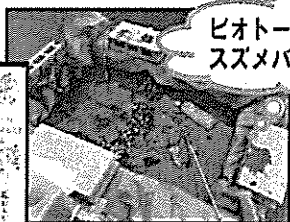
そんな噂を聞きつけ、すぐに「すむさとリーグ」の岡田さんと出会いました。養蜂活動を始めるためのノウハウを教えていただき、まずは学校と地域の承諾を。「ミツバチといっても、やっぱりハチ。」怖いイメージのあるミツバチを飼うために、学校・地域の方々に、ミツバチの生態や安全にミツバチを飼うための手立てを説明させていただきました。また神奈川県にも申請を行い、養蜂活動をスタートすることができました。ただ、最初にミツバチを間近に、内検（飼育）活動をする、やっぱり怖い。



隣の幼稚園に説明  
そして  
初めての内検



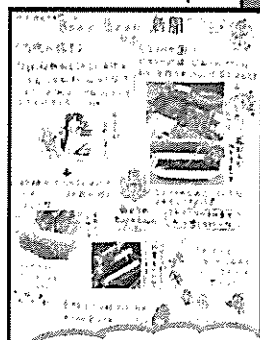
ビオトープと  
スズメバチトラップ



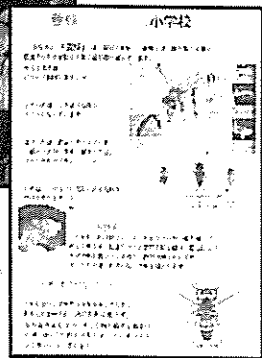
ミツバチの飼育環境をよくするためにはどうしたらよいか。「ミツバチが水を飲みやすくするには。」「近くに花があったらよいね。」などと意見を出し合い、屋上にミツバチ園を作ることに。また夏以降には、ミツバチを襲いに「スズメバチ」が襲来します。安全に養蜂活動を進めるために、その対策について考える活動も始まりました。併せて、地域の方々へ向けて自分たちの活動内容について伝えるために広報活動も開始。近隣校や自治会の掲示板などに作成したポスターを掲示していただきました。

そして内検を繰り返してきたため、いつの間にかミツバチを見ると、「怖い」から「かわいい」に。

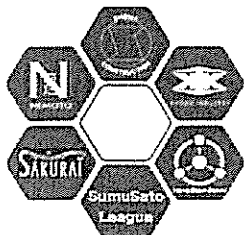
地域掲示用ポスター



遠心分離機を使って採蜜



養蜂を始めた時期が遅かったことから、ハチミツの採取が厳しいという現実が。「どうか六つ川でハチミツを採りたい」という子どもたちの思いから、毎日のように砂糖水をあげることに。また秋に咲く花から花粉をもってくるミツバチを見て、地域のどこに、どんな花があるのかを調査。その調査結果を「花マップ」にまとめました。弘明寺で活動されている「すむさとリーグ」の岡田さんを招き、大岡小学校の卒業生からいただいた巣枠を使って採蜜の仕方を教えていただいた「第1回 BoomBoom パーティ」。採蜜の仕方を保護者の方々にも見せたいという思いから、自分たちがこれまでこだわってきた六つ川小で集めた蜜を使って採蜜作業を見せた「第2回 BoomBoom パーティ」。これまでたくさんお世話になってきた農援隊の方々を招いて行った「第3回 BoomBoom パーティ」。自分たちが活動を通して学んだこと、六つ川という地域の素晴らしさ、そしてこれまでの感謝を伝えました。



昭和建設株式会社  
根本建設株式会社  
協同工業株式会社  
株式会社櫻井

SumuSato League

一緒に取り組むことにより、大人の常識を超えた柔軟な発想や、好奇心や感動を原動力とすることの大切さに気付かされました。

今後も、学習で知識を得るだけでなく、体験を通じて実感し、知識を知恵へと変える人に成長することを期待しています。